

平成 17 年度 国際学術コミュニケーション委員会

SPARC/JAPAN プロジェクト活動報告

1. プロジェクト会議及び説明会・セミナー等の開催状況

1) プロジェクト打ち合わせ

7月15日(金)(国立情報学研究所)

- ・今年度の活動内容について検討

9月13日(火), 10月13日(木), 11月25日(金)(国立情報学研究所)

- ・大学研究者の研究活動及びオープンアクセスに関する意識調査の実施案を検討

1月31日(火)(国立情報学研究所)

- ・大学研究者の研究活動及びオープンアクセスに関する意識調査結果の取扱い及び今後の活動について検討

2) 国立情報学研究所との協議等

第一回運営委員会(6月6日(月)/国立情報学研究所)

- ・平成17年度事業計画等を決定

第二回運営委員会(10月13日(木)/国立情報学研究所)

- ・参画英文誌の追加選定について及び大学研究者意識調査の実施について

第三回運営委員会(2月15日(水)/国立情報学研究所)

- ・これまでの活動総括及び平成18年度以降の事業方針について

3) 調査活動

大学研究者の研究活動及びオープンアクセスに関する意識調査を、国立情報学研究所と共同で実施した。

調査目的

研究者の研究活動及びオープンアクセスに関する知識、経験について調査し、国立大学図書館が今後機関リポジトリ構築の取組を進めていく上での基礎資料を得るため

調査対象

国立大学法人及び大学共同利用機関法人に所属する教員(無作為単純抽出した2000名を対象)

実施期間及び回収状況

平成17年12月

有効回収数: 613票 有効回収率: 30.7%

調査結果

オープンアクセス(OA)の概念についての認知度は29%にとどまり、OAジャーナル及びセルフ・アーカイビングへの対応が遅れていることが示された。また、図書館からの大学教員へのOAへの注意喚起もまだ少ないことが明らかとなった。

4) 各種説明会及びセミナー等

UniBio Press の挑戦 - 学会の新しいビジネスモデル (7月20日(水) / 茨城大学附属図書館)

- ・ 茨城大学附属図書館主催、NII 共催、59名参加

学術コミュニケーションの今日：SPARC/JAPAN の挑戦 (山口大学図書館セミナー2005) (9月15日(木) / 山口大学図書館)

- ・ 山口大学図書館主催、NII 共催、74名参加

これからの学術コミュニケーション：電子ジャーナル・オープンアクセス・機関リポジトリ (11月22日(火) / 金沢大学附属図書館)

- ・ 金沢大学附属図書館主催、約90名参加

学術情報発信の新しい動向 (12月9日(金) / 長崎大学附属図書館)

- ・ 長崎大学附属図書館主催、NII 共催、57名参加

電子図書館の現状と未来：機関リポジトリを見据えて (大阪大学附属図書館学術講演会) (3月2日(木) / 大阪大学附属図書館)

- ・ 大阪大学附属図書館主催、近畿イニシア共催、89名参加 (土屋主査講演)

学術情報流通の世界的動向と大学 (北海道大学附属図書館講演会) (3月3日(金) / 北海道大学附属図書館)

- ・ 北海道大学附属図書館主催、75名参加

SPARC/JAPAN 連続セミナー「電子ジャーナル時代の学術情報流通を考える」

- ・ NII 主催
- ・ 第1～9回 (5月～2月) 9回開催
- ・ 第3回 (7月15日) 土屋主査講演

2. 今後の活動予定

1) 国立情報学研究所との連携協力

平成18年度以降の国立情報学研究所「国際学術情報流通基盤整備事業」と継続して連携協力を進める。

2) 国内外の関係団体との情報交換・連携

研究者アンケート結果に基づき、国内外の学術コミュニケーション関連団体と情報交換を行い、連携を図る。

3) 図書館員への広報活動

引き続き、図書館関係雑誌への関連記事の投稿を行うほか、各種研修会、講習会、セミナー等の機会を捉えて、図書館への広報を行う。

4) 機関リポジトリの普及活動

学術コミュニケーションの改善策の一つである「機関リポジトリ」については、学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクトとも協力・連携をとり、その必要性についても、広報活動を行う。

以上